

様式第25号

年 度 評 価 シ ー ト

課名 男女共同参画・人権政策課

施設の名称 静岡市女性会館	指定管理者名 特定非営利活動法人 男女共同参画フォーラムしずおか
<p>1 履行状況</p> <p>業務仕様書及び業務計画書に従って適切に履行されている。</p> <p>(1) 事業実施状況</p> <p>令和3年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、主催事業の日程や開催方法の変更を余儀なくされた。特に緊急事態宣言の発令により、令和3年8月20日から9月30日まで利用時間の短縮やコロナ禍における利用控えがあり、利用者数は減少したが、感染症対策を徹底し、各事業は良好に実施された。</p> <p>主な事業の詳細は以下のとおりである。</p> <p>① 講座企画運営事業</p> <p>事業計画書に加えて1講座「地域防災前講座」、全21講座を実施し、延べ1,158人の参加があった。</p> <p>主要講座である第18期アイセル女性カレッジは、40代・50代の働く女性を対象とし、「働く女性のためのセカンドキャリアデザイン～同世代と共感し合い、わたしの未来を考える」をテーマにしており、人生後半を見据えたキャリアプランを同世代の仲間と共に考える内容となっており、満足度は98.3%と非常に高くなっている。</p> <p>また、防災分野における女性の人材育成講座「Jo-Shizu防災講座 私の声を地域に活かす」は、前年度まで市内三区で開催を達成したため、新たな人材の養成及びこれまでの修了生とのネットワークづくりを目的として実施した。コロナ感染拡大の影響で実施日の変更やプログラム内容を一部変更した。</p> <p>コロナ禍において定員の規模を縮小したため、講座参加者数は例年に比べて少なかったが、講座受講者の満足度は全体平均で97.2%と高かった。</p> <p>② 相談事業</p> <p>「女性のための総合相談」は、電話・面接相談を247日、法律相談を24日開設し、年間で1,922件の相談があり、昨年度の1,938件を若干下回ったが、電話相談に限っては前年より10件増加した。</p> <p>相談者の中心はこれまでの40代・50代から30代・40代に変化した。相談内容を見ると「家族・親族関係」「DV・暴力」「離婚」という順で上位3位を占めている。面接相談の半数は「DV／暴力」に関するもので、「離婚」を加えると8割を占める。</p> <p>就職・転職・キャリア相談は、年間40件実施。予約方法を電話予約のみでなく、年度途中からWeb予約を可能にしたため、昨年より応募が10件増えた。</p> <p>③ 情報収集・発信事業</p> <p>図書コーナーでは、貸出冊数は16,396冊となり、目標の12,000冊を大きく上回った。</p>	

若い世代がよく利用するSNSツールのTwitterやInstagramは定期的に情報発信を心掛け、それぞれ前年より100件以上多く発信できた。

④ Jo-Shizu人材バンク活用事業

コロナ禍においてメンターの公募を休止し、メンター同士の交流会である「メンターフェスタ」もオンラインで開催した。個人面談の希望は、4件だった。

⑤ 団体活動支援事業

令和3年8月20日から9月30日まで貸室の利用の制約が生じたが、少しずつ各団体の活動が再開された。また、毎年2月に開催している団体活動発表会「アイセルわいわい祭り」は、コロナ流行拡大の可能性の観点から、展示と映像参加のみに縮小して行った。

(2) 施設管理・運営

各部屋の稼働率は平均で41.0%（前年度38.9%）であり、利用者数は50,182人（前年度38,693人）と、前年比で若干回復したが、平常時と比べると低かった。

個別の修繕については、利用団体からも要望があった無料Wi-Fiを4階のすべての集会室からアクセスできるように整備した。煙感知器取替、給湯機基盤交換、外線電話工事等10件対応した。

(3) 組織運営

年度途中で相談員の退職があり、相談員確保に苦心した。今後は他部署の職員も相談対応できるように研修の機会を確保するほか、女性支援の志のある人材の発掘・育成を行っていく。

職員にコロナ感染者が出たが、ほかの職員や利用者への感染はなかった。これを機に感染の可能性のある職員について特別休暇制度を設けた。公共施設を運営する組織の一員として改めて感染防止に対するさらなる意識を高めていく。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

女性会館では、利用者からの意見・要望を吸い上げるため、定期的に利用者トークサロンを実施しており、複合施設である葵生涯学習センターと情報共有しながら、意見・要望を反映した施設管理を行っている。令和3年度はDV防止ダンス講座の参加者に焦点を当て、利用者トークサロンを通じて意見・要望を聴取し、適切に対応した。

<具体的な意見・要望とその対応状況>

意見等：就職に有利な資格、ママでも働ける仕事を紹介してくれる講座があるとよい。

意見等：子供のいる人向けの災害対策を学びたい。

意見等：参加しやすい平日午前講座を行ってほしい。

対応：頂いた意見を次年度の講座企画・運営の参考とする。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

講座受講者に対して実施した講座満足度アンケートでは、97.0%が「満足」か「まあ満足」と回答しており、協定書で定めた目標値（94%以上）を上回る結果となった。

(2) Zoomを活用したオンライン講座の利用

目的：女性会館の講座参加者の属性、地域及びオンライン講座の受講状況を把握する。

対象者：講座等への参加者 延べ584人

講座参加者の年代は40代、50代の順に多く、合わせて全体の2/5を占めている。講座等は、広報しずおかやチラシを通じて参加する方が多いほか、学校出前講座や学校経由の参加が多い。

またZoomを活用したオンライン講座の受講状況について調査したところ、受講した経験の有無がほぼ同率であった。更に、オンライン講座を受講しなかった理由を調査したところ、「操作がわからない」と回答することが最も多かった。情報が届いていなかったことが分かる記述もあり、情報発信の工夫によってオンライン講座の利用者の増加を目指す必要がある。

(3) 女性会館の認知度、女性会館に期待する役割

目的：新型コロナウイルス感染症が女性の生活や心身にどのような影響を及ぼしているのか実態を把握する

対象者：18歳以上の市民（静岡市市民意識調査） 972件（有効回答数）

女性会館の認知度に関して「女性会館を利用したことがある」、「知っているが利用したことはない」と合わせると62.7%であった。前回調査61.9%（2018年）をわずかに上回る結果になった。10・20代の若い世代が7割、清水区の人半数が「知らない」と回答しており、若い世代や、清水区在住者にアピールして、女性会館の認知度をあげ、今後の新規利用につなげていく必要がある。

女性会館に期待する役割に関して「多様な生き方を応援する各種セミナーの開催」38.6%、「女性のための相談」36.8%、「働くうえで役に立つ各種セミナーの開催」31.9% この情報をもとに今後も情報発信や事業展開に生かしていく必要がある。

4 指定管理者の経理状況の評価

指定管理業務についての収支状況については、概ね予算のとおり執行されており良好である。なお、支出科目ごとに見ると事務用品費等において支出超過が見られるが、新型コロナウイルス感染症対策として、講座の開催方法をオンライン中心に変更したことや講師をなるべく地元から呼んだことによる経費削減や、光熱水費の減少などにより、全体としては予算の範囲内に収まっている。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

協定書中の数値目標については、(1) 新規講座利用者数 年間220人(目標:400人以上)、(2) 講座等受講者の満足度 97.2%(目標:94%以上)、(3) 図書コーナーの図書貸出冊数 年間16,396冊(目標:12,000冊以上)という結果になっている。

(1)については、コロナ下で定員規模を縮小していることにも一因があるが、3市民アンケートの結果からわかるように、10・20代の若い世代や清水区民のアピールを行うことで、新規利用者につなげていく必要がある。(2)については目標を達成、高い満足度となった。(3)については、昨年度に引き続き、貸出冊数は例年を大きく上回る結果となった。この要因として、令和元年度の貸出冊数の上限引き上げや外出自粛により自宅で過ごす時間が長くなったことが考えられる。

施設の管理運営全般に関しては、事業計画に従い良好に実施されている。特に、新型コロナウイルスに対して、市の方針に従い感染症対策を徹底し、利用団体への周知等について臨機応変に対応できている。

また、利用者トークサロン等により、随時利用者からの声を反映させる等、指定管理者制度のメリットを十分に活かし、満足度の高い事業展開及び施設管理を行っている。